

過去・未来に関する無意図的な想起・思考の機能：時間割引との関連性

○森田泰介（東京理科大学）・金野和弘（島根県立大学）

要旨

思い出そう・考えようとしていないのに、記憶や思考がふと頭に浮かぶ現象は、日常場面において頻繁に経験される普遍的なものである。近年、そのような無意図的な想起・思考が有する機能に関する検討が盛んに行われるようになっており、そのなかでは時間割引が無意図的な想起・思考の生起により低減されるという結果が見出されている。この知見は、未来に関する無意図的な想起・思考がなされることにより、眼前の情報のみ縛られることなく、長期的な目標を考慮した意志決定ができるようになることによると解釈されている。もしこの解釈が妥当なものであれば、想起・思考の内容が未来に関するものである場合には時間割引の低減が見られ、一方、想起・思考の内容が過去に関するものである場合には時間割引の低減が見られなくなることが予想される。しかしながら、そのような検討はこれまでなされていない。そこで本研究では、過去や未来に関する無意図的な想起・思考の個人差と、時間割引との関連性について 191 名の大学生を対象にした質問紙実験により検討した。その結果、未来の予定に関する記憶の無意図的な想起を多く経験する者ほど、時間割引の生起を示す選択を行にくいことが示された。この結果から、先行研究の解釈は妥当なものであり、未来に関する無意図的な想起・思考は長期的な目標を見据えた意志決定を促進する機能を有することが示唆されたと考えられる。